

らうといふ謂はたし——主上御幼少のとき頼公天下を
失ひ給ふんとするを恐るぬ息——と病みおたて
改大圖の急みおくれ——大老の威おしめられ
つゝた形おしめおろし令をえて給戻をせんと
しけり此にお君年より矢をやり攻戦毎度
お及ぶれどもお病一度にお受り——金身おかけ
て吾らに押しおえしものハお家の名譽をえ
と云主人の思をききしと云弟比奈に振返りし——
此は清人見しうの爲おし——て其首を切り勇
功をえしおわいしに候に候てお貴様を施し——きこ

しお歸けりしをいふお小貝也——とて一のあやを起し
常々金鼓の傳おけりておと一知お白川を臺に
とて——はる遠きために比沙門号天又老
徳伝公乃御牌前より上下誓約おしき——とて常勝
公より牛王の血をとりきて伝義をとりおし
り——大才小才の面——血判をすく末の事と
皆神水も吞て君をたふ生れを返し——と堅約を
おししお一人をいひて云く世に戦務員と計しし
爲利より疑り——いんとおられいれを並の敵國
よりお倍十倍の人おありてい攻りかきしは